

## 受章者代表挨拶

28行(例文16行)

本日、褒章受章の栄に浴しました三十四名を代表いたしまして、御礼の御挨拶を申し上げます。

ここにおられる他の叙勲者の方々も、それぞれの分野に多大な貢献をされてきたことと思います。胸に秘めた想いも、その過程もとてもひとまとめには語れませんので、僭越ながら私の思いを述べさせていただきたいと思います。

私の専門はコンピュータグラフィクス、いわゆるCGです。私がCGの研究を始めた頃、計算機に絵を描かせるとは何事だと周囲に笑われました。しかし私はCGの魅力にとりつかれ、評価されないながらも、仲間とともに半世紀、愚直に研究を重ねてきた結果、今やCGは、映像産業やバーチャルリアリティだけでなく、自然科学やものづくり、医療の発展をも支える技術に成長しました。私が今ここで大変名誉な褒章をいただけるのは、この分野に関わってきた全ての人々の汗と努力の末、ついにCGが重要な文化、技術であると認められた結果であると考えております。

どの分野にも言えることですが、各分野を代表する人が褒章を頂くことにより、その分野の評価、若い人の励み、活性化につながると言えます。私自身、残りの人生をこの分野の進展に貢献したく思っています。

さて、我が国が世界の国々から親しまれ尊敬される国家として、今後も世界をリードしていくためには、歴史と伝統の上に独自の高度な教育や科学技術・学術、香り高い文化・芸術及びスポーツの花を咲かせることが、さらに強く望まれるところであります。歴史と伝統を継承しつつも独創性に富む若手人材を養成し、彼らが活躍できる場を提供すべく、不断の努力が必要であると考えます。

私どもはこれからも、健康に留意し、今回の栄誉を体し、これを一つの励みとしてそれぞれの分野の発展のため、若手が貪欲に夢を追求できる環境を整えるため、なお一層の精進を重ねる決意であります。

終わりにあたりまして、本日の褒章受賞に際して御尽力をいただきました多くの皆様に、心から厚く御礼申し上げます。

本日は誠にありがとうございました。

平成29年 11月14日

受章者代表 西田 友是